



MSG12-0K001 ハードトノカバー

取付・取扱要領書

この度はハードトノカバー (MODELLISTA)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本書は本商品の取り付け、取り扱いについての要領と注意を記載してあります。

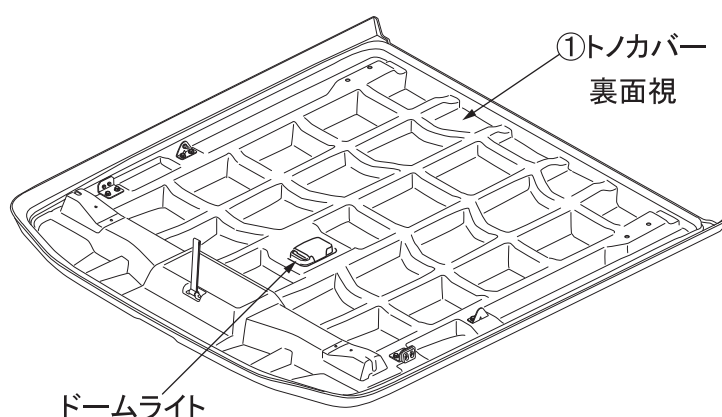
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付け、取り扱いを実施してください。

★本商品は登録後架装を前提としています

■品番・適合車種

品番	適合車種	備考
MSG12-0K001	ハイラックス	

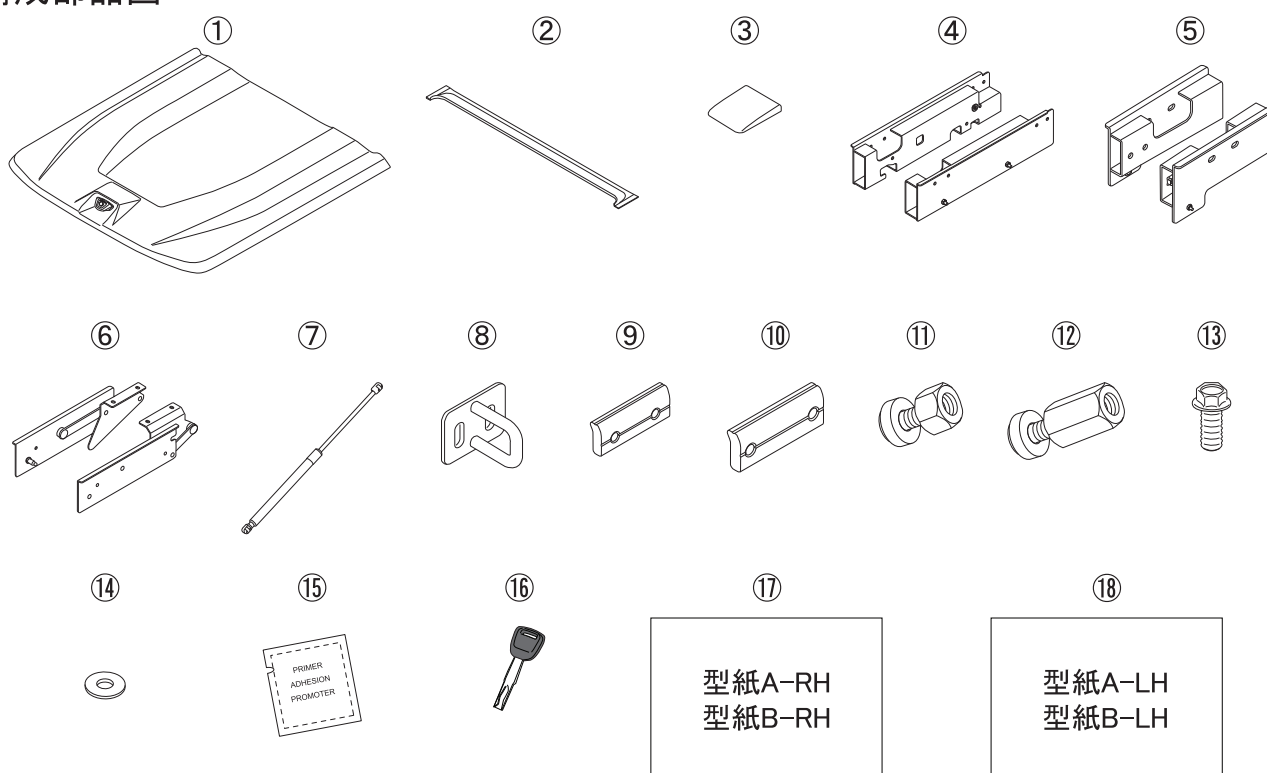
- ・最新の適合情報はMODELLISTA公式サイトをご覧ください。 <http://www.modellista.co.jp/>
- ・トノカバーとベッドライナーを同時装置する場合は、ベッドライナーのカット加工が必要となります。本書の要領をご確認のうえ作業を行ってください。
- ・本製品はデッキ内部への雨水の流入を完全に防ぐものではありません。
- ・降雪時など、こまめに雪下ろしを行ってください。
- ・ドームライトは電池式のため、消し忘れに注意してください。
- ・別途単4電池を4本ご購入いただき、ドームライトに装着してください。



■構成部品

No.	品 名	数量	備考
①	トノカバー	1	
②	フロントウォーターディフェンス	1	
③	ラバーコネクター	2	
④	ヒンジサポートブラケット(RH/LH)	各1	
⑤	Uロックサポートブラケット(RH/LH)	各1	
⑥	ヒンジブラケット(RH/LH)	各1	
⑦	ショックアブソーバー	2	
⑧	Uロックプレート	2	
⑨	プレートナットA	4	M8 × 40
⑩	プレートナットB	2	M8 × 50
⑪	ヒンジサポートブラケットストッパー(RH/LH)	各2	
⑫	Uロックサポートブラケットストッパー(RH/LH)	各1	
⑬	フランジボルト	20	M8 × 20
⑭	ワッシャー	12	
⑮	PACプライマー	2	
⑯	キー	2	
⑰	型紙A/B-RH	1	
⑱	型紙A/B-LH	1	

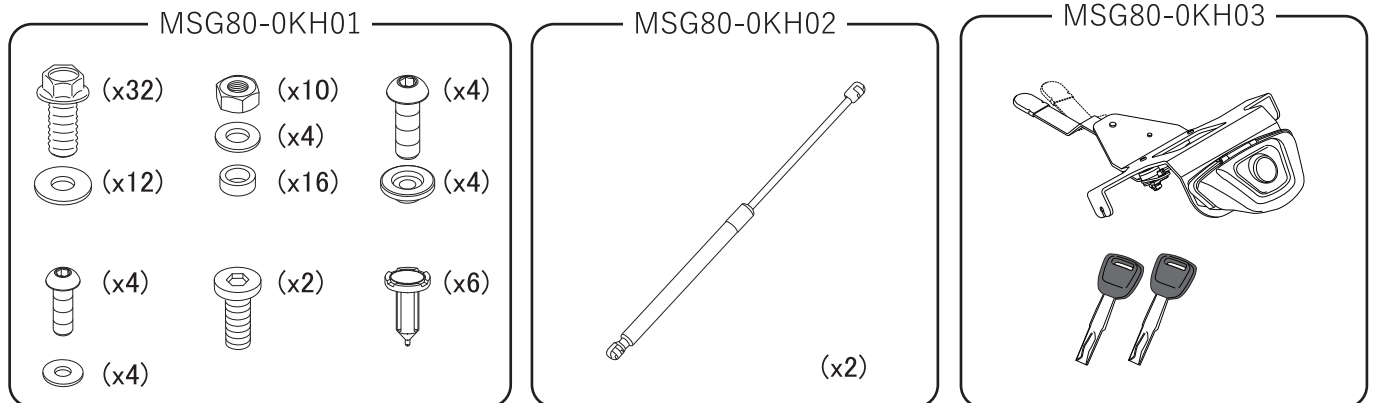
■構成部品図



■リペアパーツセット(補給)

品番	備考
MSG80-0KH01	各数量は以下の括弧内に示されています。
MSG80-0KH02	各数量は以下の括弧内に示されています。
MSG80-0KH03	キーは2本付属

※リペアパーツセットは補給専用のため、MSG12-0K001には付属しておりません。



■取り付け上のご注意(取り付け作業の方へ)

作業を行う前に必ずお読みになり、安全で確実な取り付け作業を行ってください。

⚠ 警告 この警告に従わず、誤った取り付け・取り扱いを行うと生命の危険または、重大な傷害等を負う可能性がある内容について記載しています。

⚠ 注意 注意事項を守らないで、誤った取り付け・取り扱いを行うと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがある事を記載しています。

👉 アドバイス スピーディに作業していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。

⊘ やってはいけないこと ⚠ 必ず行っていただくこと

⚠ 警告

- ⊘ 本商品への改造・加工、及び適合車種以外への装着は、重大な事故や故障を招くおそれがありますので絶対に行わないでください。
- ⚠ 本商品の取り付け・交換は、該当車両の修理書(トヨタ自動車(株)発行)に従い、本書の注意事項を守り作業を行ってください。
- ⚠ 取り付け作業は規定トルクを守り、確実に締め付けてください。締め付けが不足すると脱落などにより重大な事故や故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意

- ❗ 本商品を取り付ける前に本体・構成部品がすべて揃っていること、損傷や不具合が無いことを確認してください。取り付け後に発覚した損傷や不具合のクレームには対応できない場合があります。
- ❗ 本商品の取り付けはキズ付き防止のため保護シートの上で取り扱いを行い、同時に取り付け部位を保護材にて養生をした上で作業を行ってください。取り付け作業時のキズ付きや破損に十分に注意してください。
- ❗ エンジンルーム内、ラジエーターキャップ付近に配線を通したり部品を取り付けがある場合は、腕当や上着がラジエーターキャップに接触し、キャップが緩む場合があります。
ラジエーターキャップが緩むと冷却水が飛び出し思わぬケガや、そのまま走行した場合オーバーヒートに繋がるおそれがあります。ラジエーターキャップに限らず、用品取り付け作業後には作業部位周辺に異常がないかご注意ください。
- ❗ タイヤとタイヤハウスとの隙間が少なくなる場合があります。
洗車やタイヤ交換の際、手指を挟んだりぶつけたりしないようご注意ください。
- ❗ 特に指示のない限り、取外した車両部品は再使用しますので紛失しないよう整理してください。

脱脂作業について（別添の脱脂作業要領書も参考にしてください。）

- ❗ 脱脂作業は清潔なウエスを使用して、イソプロピルアルコール(IPA)で行ってください。
上記以外の溶剤は絶対に使用しないでください。
- ❗ 脱脂作業にボディーコーティング等の下地処理剤やパーツクリーナー、ブレーキクリーナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。正しく脱脂が出来ず浮き、剥がれの原因となります。

両面テープについて

- ❗ 脱脂作業を怠ると両面テープが剥がれるおそれがあります。
- ❗ 両面テープは一度貼り付けてから剥がしますと、接着力が低下しますので再貼り付けはできません。
- ❗ 外気温が15℃未満の場合は両面テープの接着力が著しく低下します。
部品または貼り付け面を人肌程度まで加温してください。
- ❗ 両面テープの圧着はテープの直上を49N(5kgf)以上(車両が軽く揺れる程度)で確実に押してください。
圧着が足りないと両面テープが剥がれるおそれがあります。
- ❗ 接着力を促進するため、取り付け後20分以内は洗車しないでください。

取り付けが終わったら

- ❗ 商品及び車両に傷が付いていないことを確認してください。
- ❗ 商品全周に渡り、浮き・剥がれ等、無いことを確認してください。
- ❗ 商品と車両との干渉が無いことを確認してください。
- ❗ 作業でバッテリーのマイナス端子を外した場合は、作業終了後にシステム設定・確認を行ってください。
- ❗ 本取り付けに伴い分解・脱着した部位により、再設定・調整が必要となる場合があります。
該当車両の修理書(トヨタ自動車(株)発行)に従い、各部の点検・調整・設定を行ってください。

■目次

品番・適合車種	1
構成部品	2
構成部品図・リペアパーツセット(補給)	2～3
取り付け上のご注意(取り付け作業の方へ)	3～4
目次	5
取り付けに必要な工具・保護具・消耗品	5
保証について	5
取り付け構成図	5
取り付け準備、取り付け要領	6～17
ハードトノカバーの開閉要領	18
取り付け完了後の点検・注意事項	19
リペアパーツセット(MSG80-0KH03)取り付け要領	20～27

■取り付けに必要な工具・保護具・消耗品

- ・一般工具・加工用工具(ハサミ・カッター等)
- ・ケガキ針・スケール・メジャー・マスキングテープ・養生テープ・ガムテープ・保護シート
- ・電動ホルソー(刃: Φ30.0mm)・保護メガネ・軍手・ニッパー・ヤスリ・バリ取り工具
- ・トルクレンチ・イソプロピルアルコール(IPA)・清潔なウエス・など

■保証について

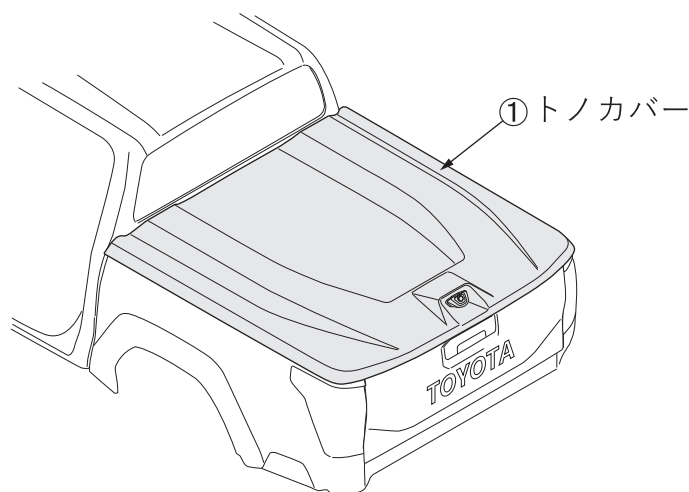
本商品は、1年・20,000kmの保証を実施致します。

(1年、または20,000km走行時点のいずれか早い方まで)

※保証の詳細はMODELLISTA公式サイト<<http://www.modellista.co.jp/>>

「保証について」をご覧ください。

■取り付け構成図

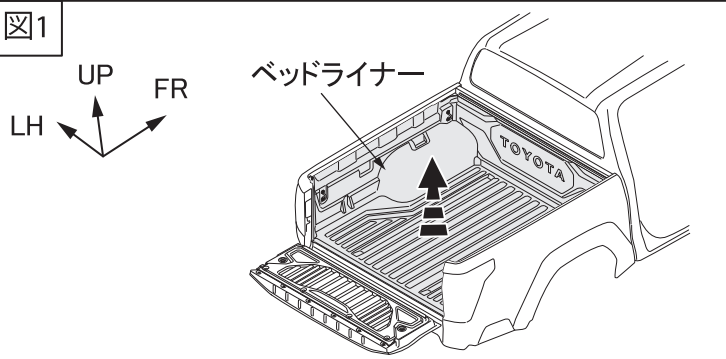


ベッドライナー未装着の場合は、7ページに進み作業を行ってください

※本取付・取扱要領書は、主にLH側を示しており、RH側も同様に行ってください。

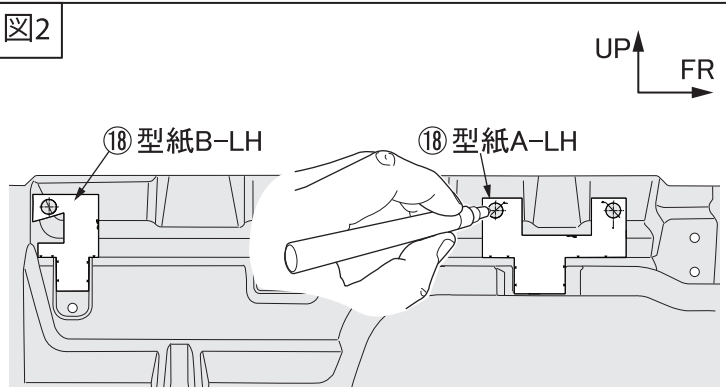
■ベッドライナーの加工作業

図1



1. ベッドライナーの取付要領書、または車両修理書に従い車両からベッドライナーを取り外す。

図2



2. ⑮型紙を外形線に沿って切り取る。
3. 図2、3、4に従い切り取った⑮型紙をベッドライナーに、マスキングテープなどで貼り付ける。
4. ⑮型紙に記載された穴あけ位置の中心に、ケガキ針などで印を付ける。

図3

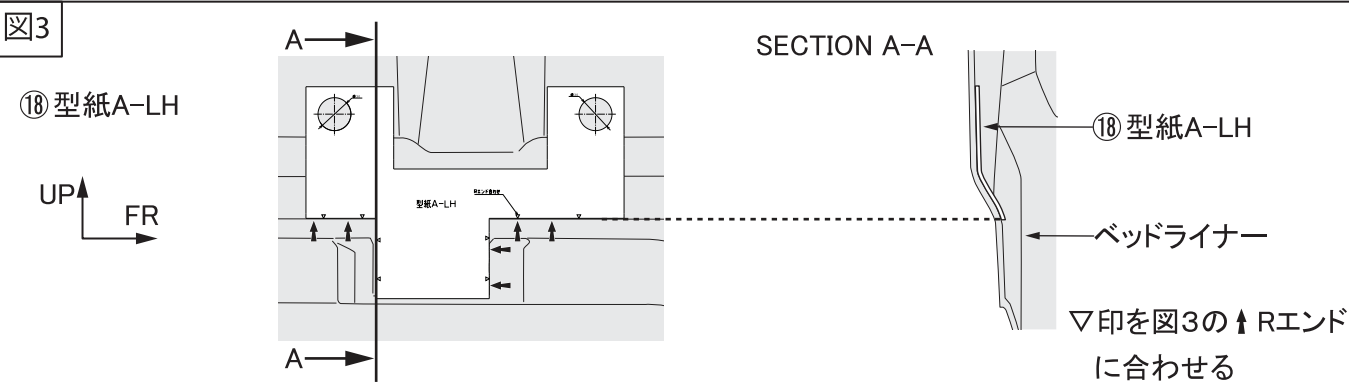


図4

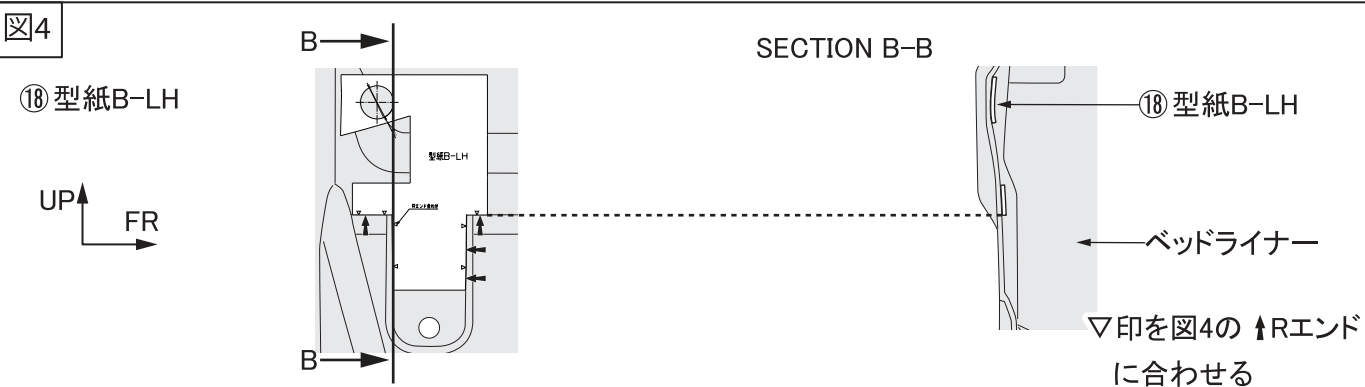
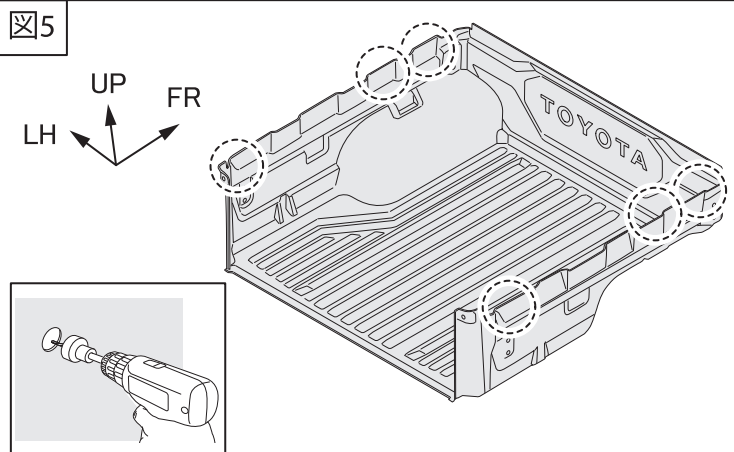


図5

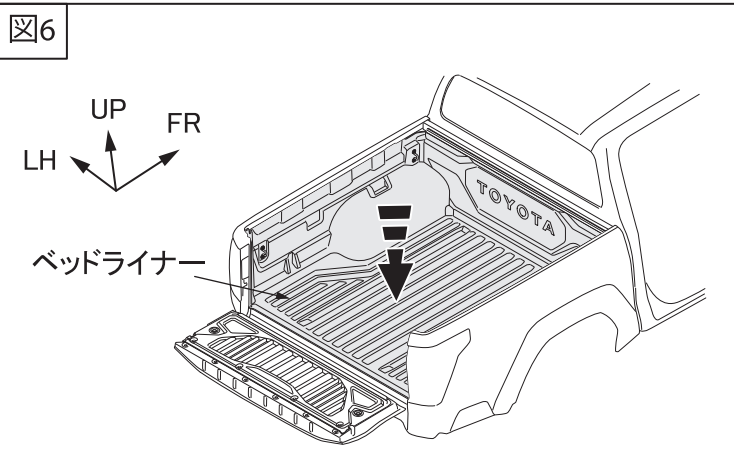


- 図5に従いマークした位置に電動ホルソーでΦ30mmの穴をあける。
- 加工穴のバリを取り除く。

△ 注意

- 電動ドリルは、穴を開ける面に対して垂直に当ててください。
- 電動ドリルで他の車両部品を傷付けないよう注意してください。
- 電動ドリルを使用する際は必ず保護めがねを着用してください。なお、ドリルに巻き込まれるおそれがあるため手袋等は着用しないでください。

図6



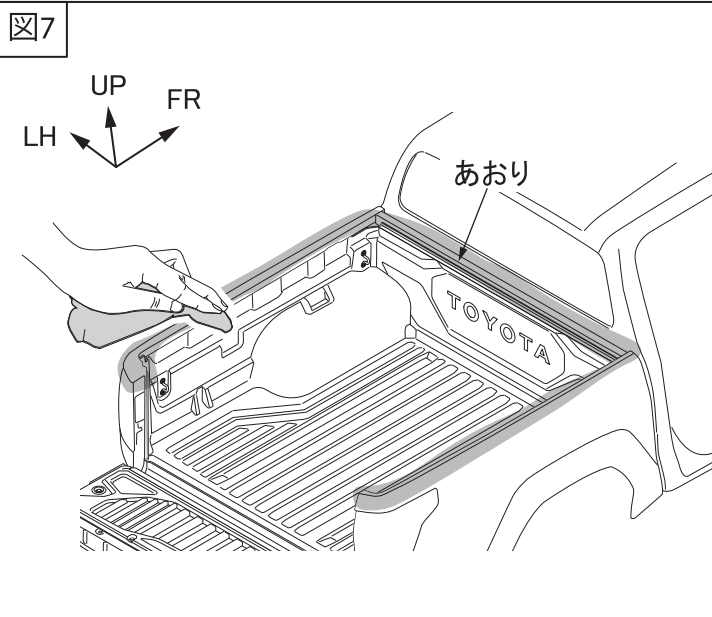
- ベッドライナーの取付要領書に従いベッドライナーを車両に取り付ける。

■ 取付準備、取付要領

※本取付・取扱要領書は、主にLH側を示しており、RH側も同様に行ってください。

□ トノカバーの取付準備

図7

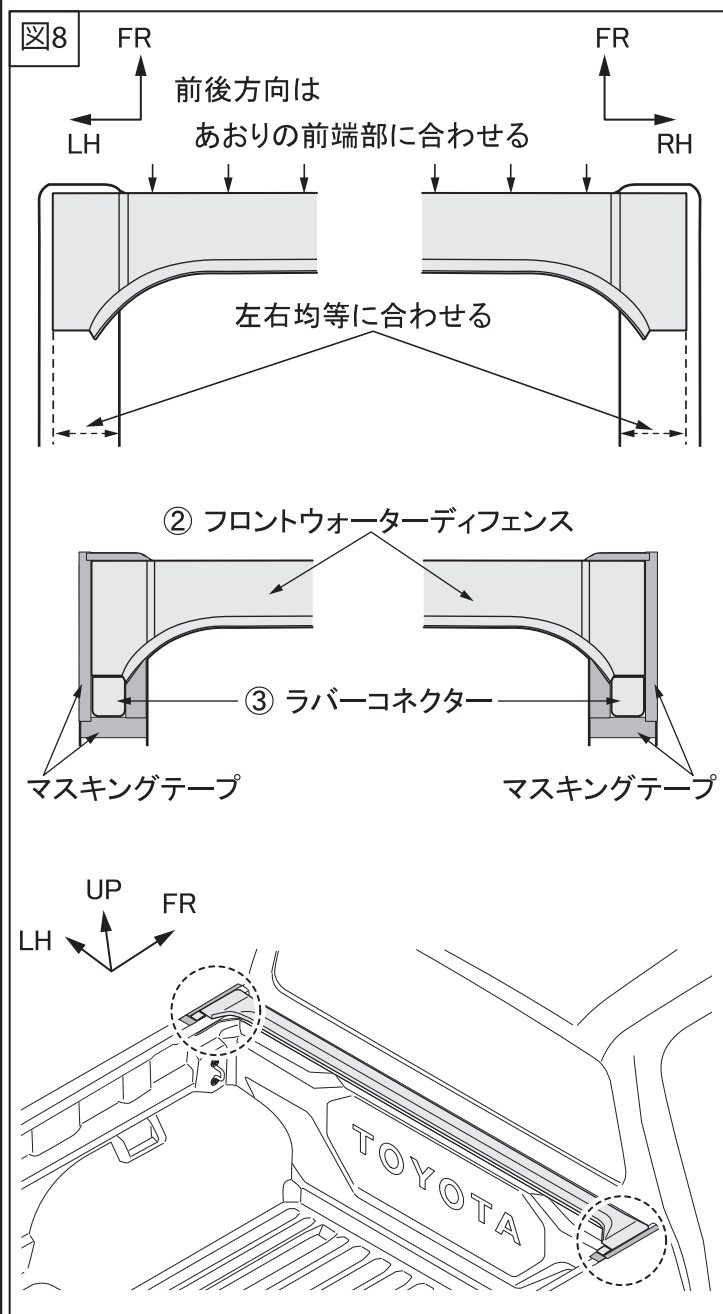


- 図7に従い、車両荷台のあおり上面の汚れを取り除きイソプロピルアルコール (IPA) で一方向に拭いて脱脂する。

△ 注意：注意:脱脂を行う際、上記以外の溶剤は使用しないでください。油脂分が残り、テープが剥がれる原因になります。

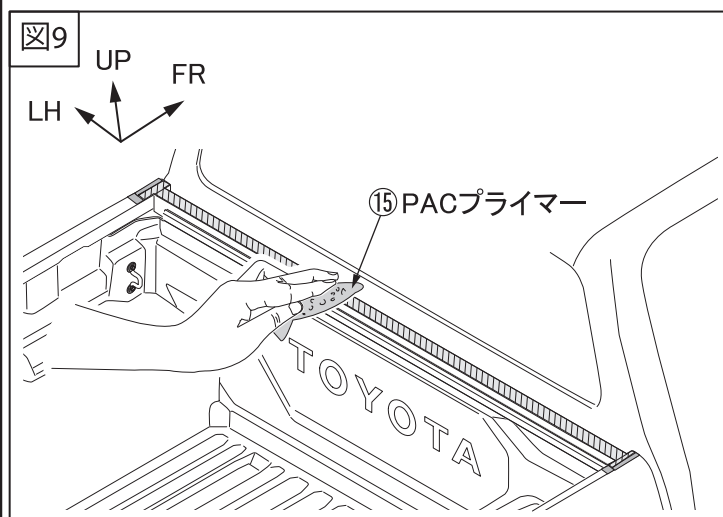
🔧 アドバイス：脱脂作業を行う際は、換気に注意して、火気を近づけないよう注意してください。

△ 注意：脱脂後は、十分に乾燥させてください。



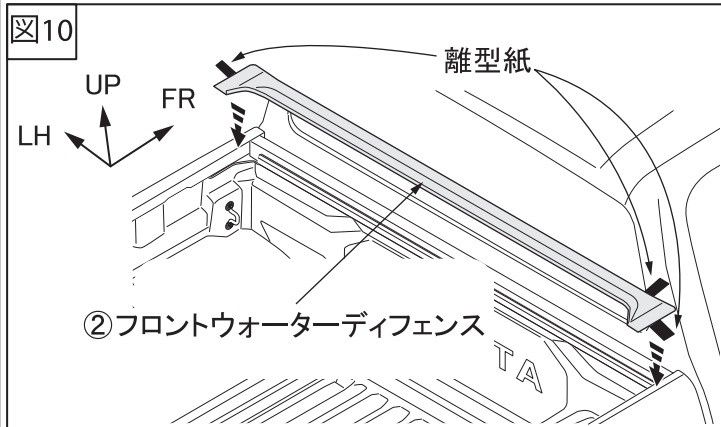
2. 図8に従い ②フロントウォーターディフェンスを左右均等になるように仮合わせし、前後方向はあおりの前端部に仮合わせする。
- ③ラバーコネクター②フロントウォーターディフェンスの端末に合わせて、仮合わせする。
3. ②フロントウォーターディフェンス、③ラバーコネクターの端末に合わせて車両荷台のあおり上面にマスキングテープを貼り付ける。

△注意：PACプライマー塗布範囲のマスキング作業のため正確な位置出し、マスキングを行ってください。



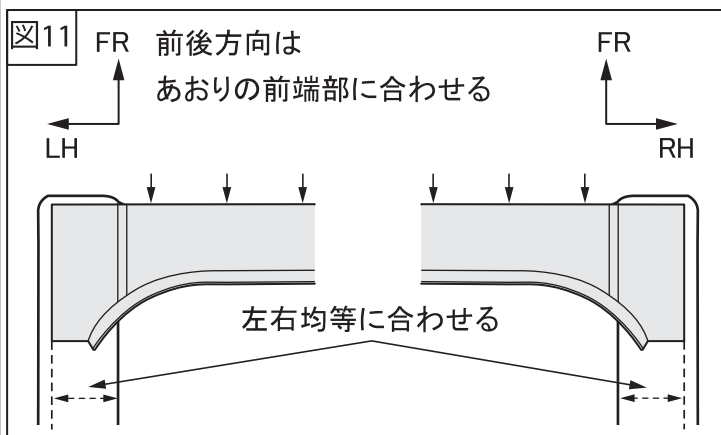
4. 図9に従い ②フロントウォーターディフェンス及び、③ラバーコネクターの両面テープ貼り付け部(斜線部)に⑮PACプライマーを塗布する。

△注意：プライマーが塗布範囲以外に付着した場合は、直ちにイソプロピルアルコール (IPA) 等で拭き取ってください。付着してしまいますと、変色する事がありますので注意してください。



5. マスキングテープを剥がす。

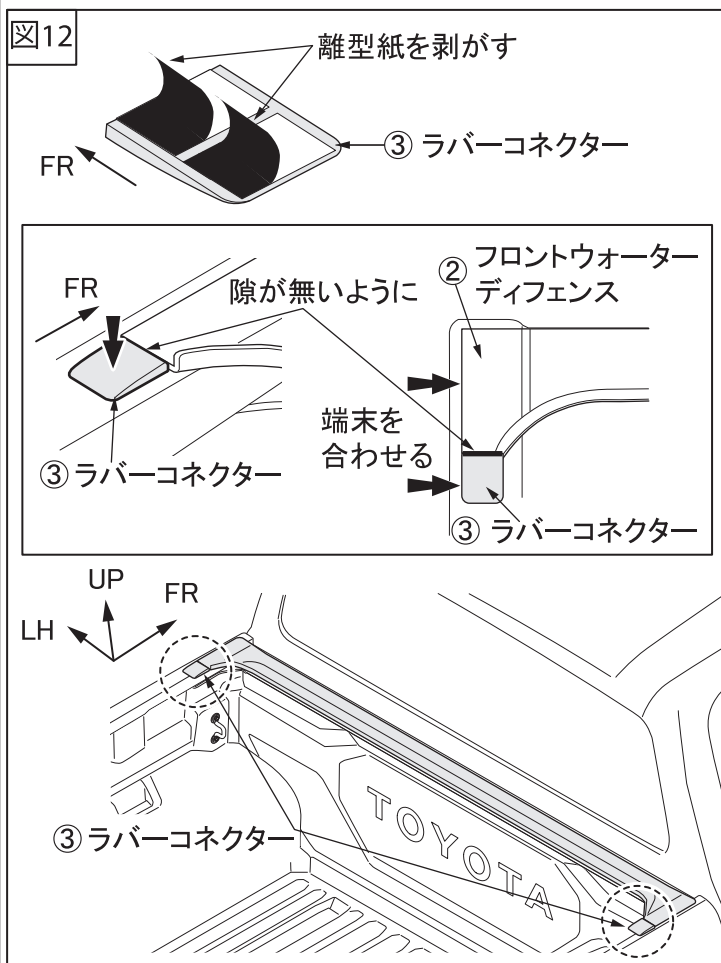
6. 図10に従い②フロントウォーターディフェンスの両面テープ離型紙を剥がしてマスキングテープなどで表側に貼り付ける。



7. 図11に従い②フロントウォーターディフェンスを左右均等になるように合わせ、両面テープの離型紙を剥がしながら貼り付け圧着する。

△注意：両面テープはしっかりと圧着してください。

△注意：外気温が15℃未満の場合は両面テープの接着力が著しく低下します。部品または貼り付け面を人肌程度まで加温してください。



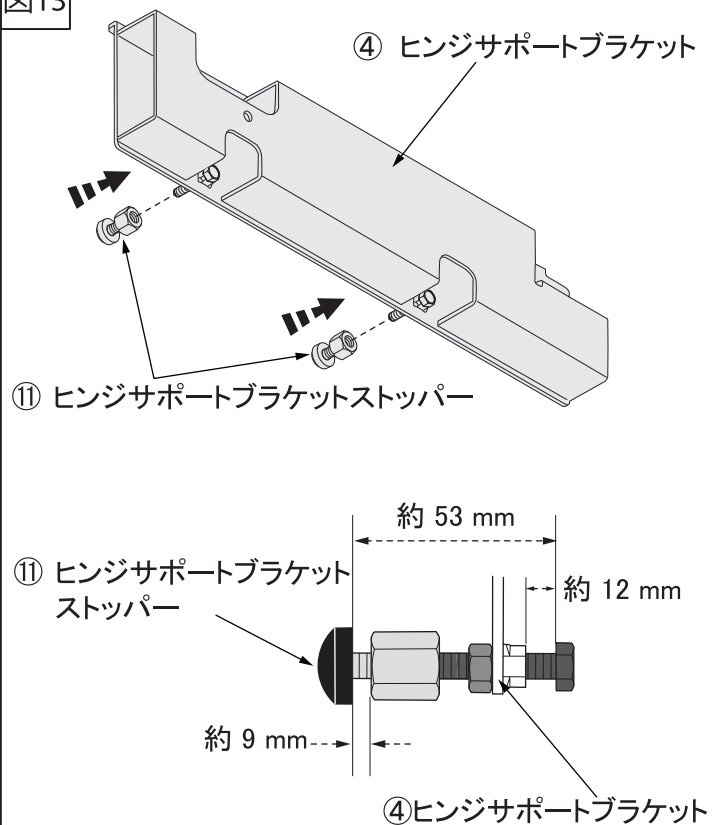
8. ③ラバーコネクタの離型紙を全て剥がす。

9. ③ラバーコネクタを②ウォーターディフェンスと隙ができないように貼り合わせ圧着する。

△注意：両面テープはしっかりと圧着してください。

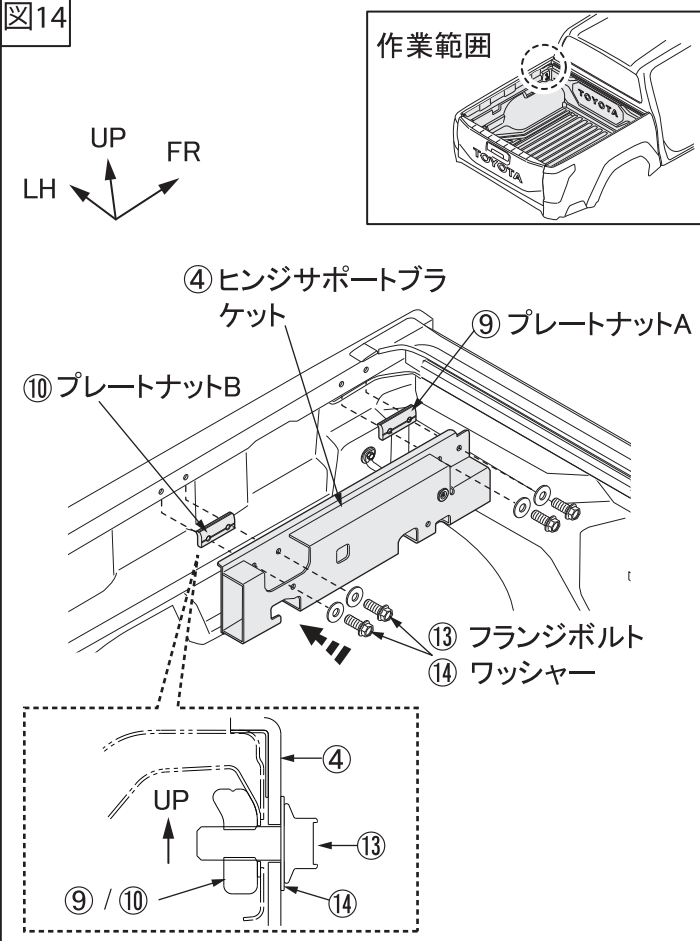
△注意：外気温が15℃未満の場合は両面テープの接着力が著しく低下します。部品または貼り付け面を人肌程度まで加温してください。

図13



10. ⑪ヒンジサポートブラケットストッパーを
図13に従い④ヒンジサポートブラケットに
仮付けする。

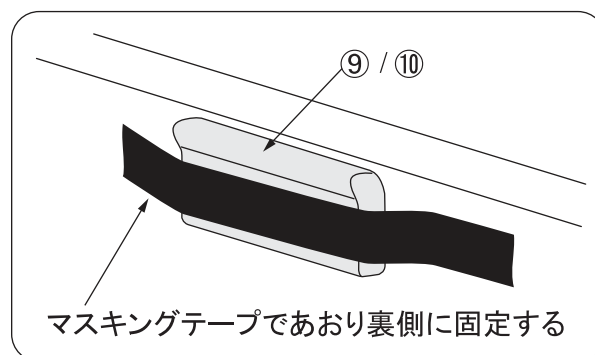
図14



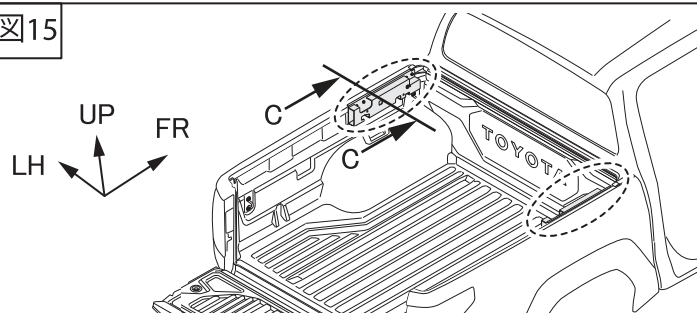
11. 図14に従い④ヒンジサポートブラケットと
⑨プレートナットA⑩プレートナットBで
車両荷台あおりに取り付ける。

⑬フランジボルト

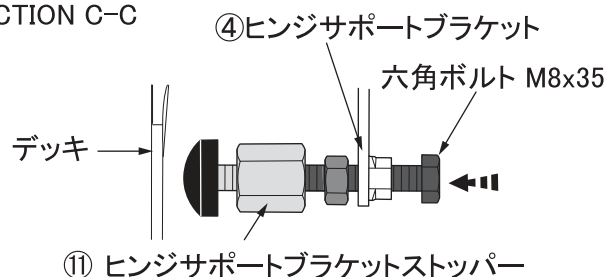
締め付けトルク: 18 N・m



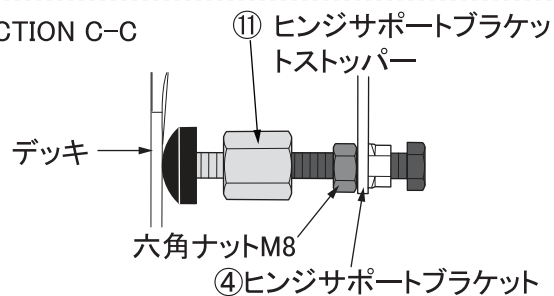
15



SECTION C-C



SECTION C-C

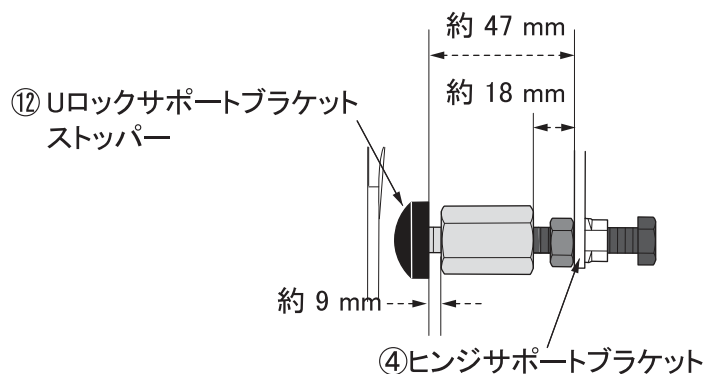
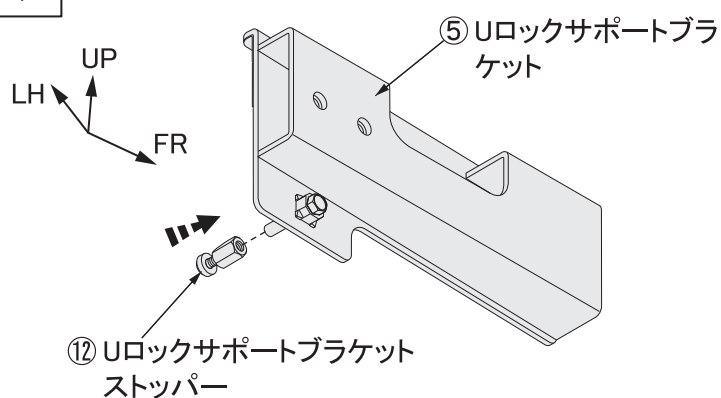


※ベッドライナー装着車はベッドライナー加工穴部に
⑪ヒンジサポートブラケットストッパーを通す。

12. ⑪ヒンジサポートブラケットストッパーの
ボルトをストッパーがデッキに接触するまで
締め込み、その後ナットを締め込み
固定する。

△注意：インパクトレンチは使用しないでください。

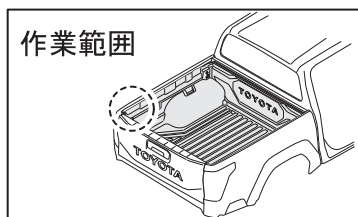
16



13. ⑫ヒンジサポートブラケットストッパーを
図16に従い⑤Uロックサポート
ブラケットに仮付けする。

図17

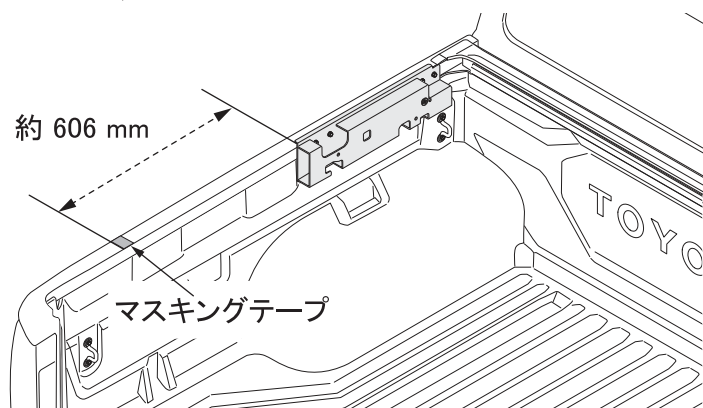
作業範囲



UP
LH FR

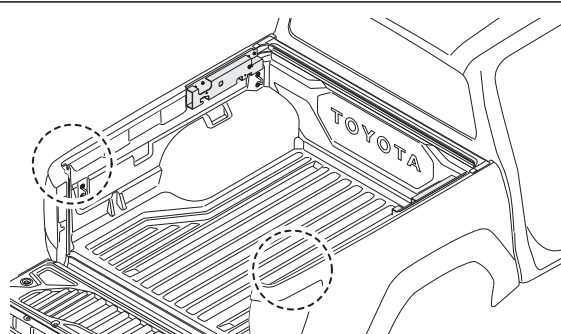
約 606 mm

マスキングテープ



14. 図17に従い④ヒンジサポートブラケット後端から約606mmの位置にマスキングテープを貼り付ける。

図18

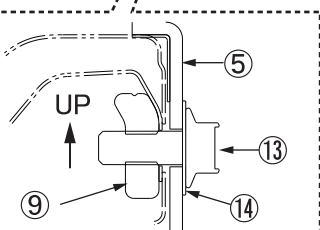


LH UP
RR

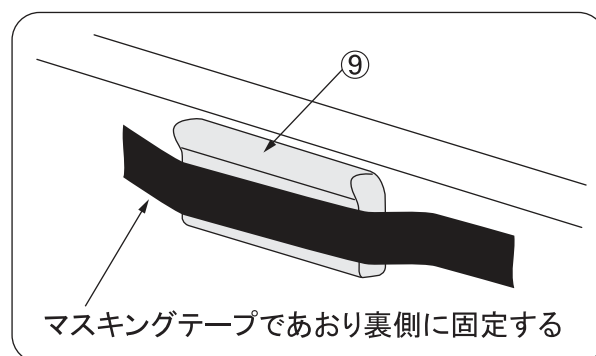
⑤ Uロックサポートブラケット

⑨ プレートナットA

⑬ フランジボルト
⑭ ワッシャー



15. マーキングに⑤Uロックサポートブラケットの前端の位置を合わせながら、図18に従い⑨プレートナットAと⑬フランジボルトで⑤Uロックサポートブラケットを仮締めする。



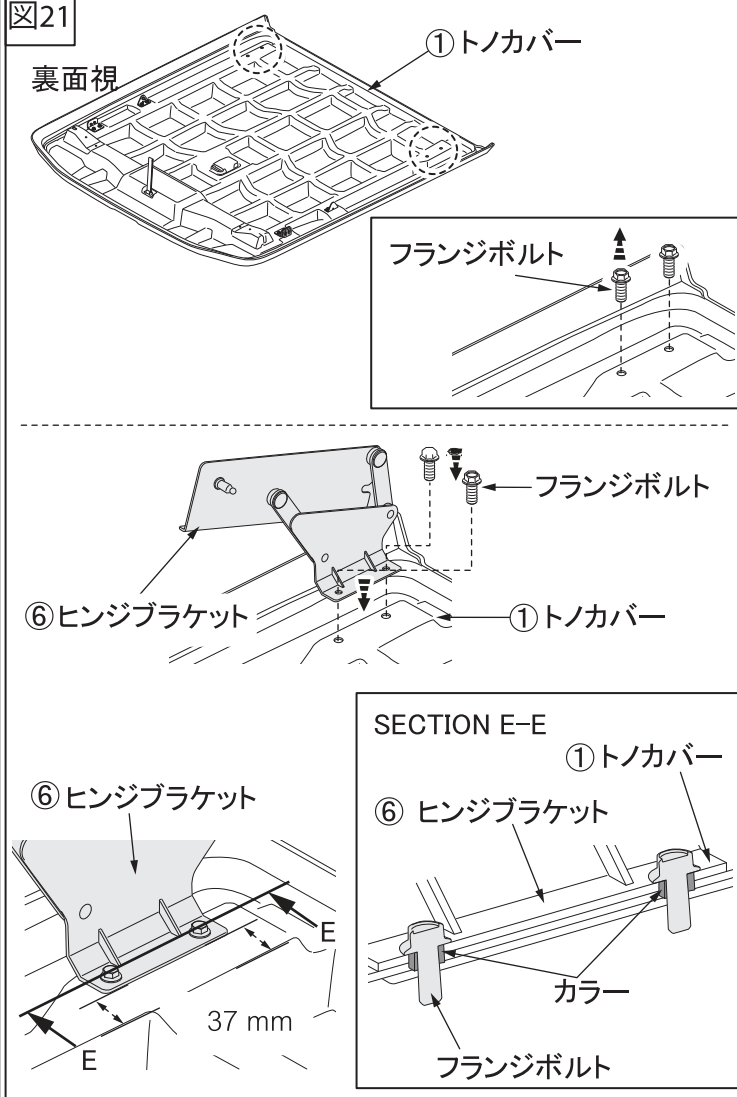
16. マスキングテープを剥がす。

17. ⑫Uロックサポートブラケットストッパーのボルトをストッパーがデッキに接触するまで締め込み、その後ナットを締め込み固定する。

⚠ 注意：インパクトレンチは使用しないでください。

18. 図20に従い⑧Uロックプレートを⑫Uロックサポートブラケットの端末から11mmの位置に合わせ、⑬フランジボルトで仮締めする。

図21

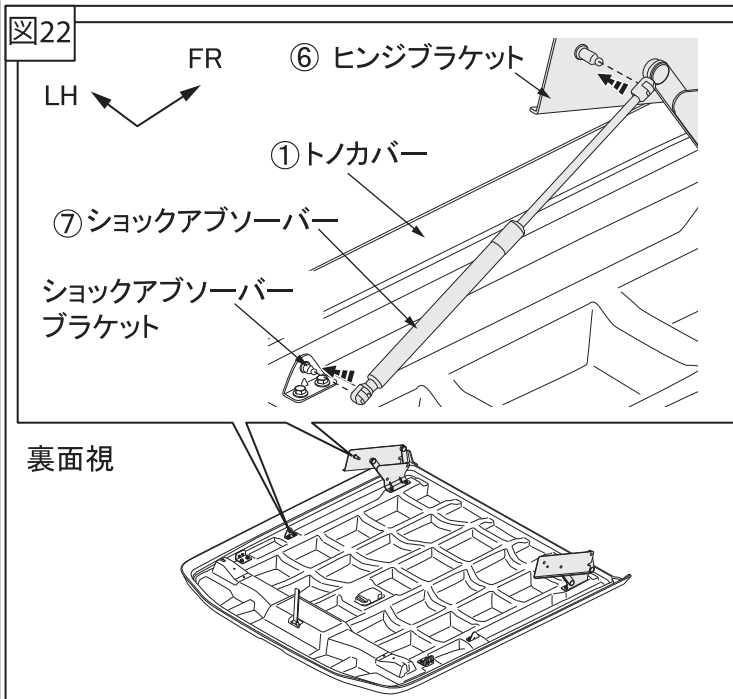


19. ①トノカバーにからボルトを取り外し、
⑥ヒンジブラケットを図に従い37mmの位置
に取り付け、取り外したボルトを再使用して
仮締めする。

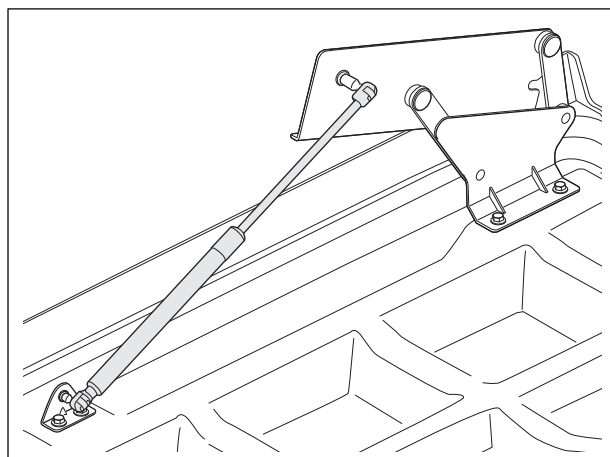
⚠ 注意

①トノカバー穴にはカラーもセットされています。
フランジボルトを取り外すときにカラーを紛失し
ない様に気を付けてください。
カラーがない状態だと、走行中にボルトが緩む可能
性があります。

図22

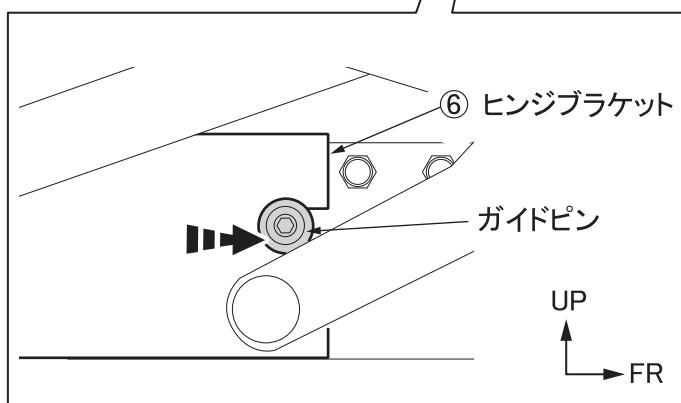
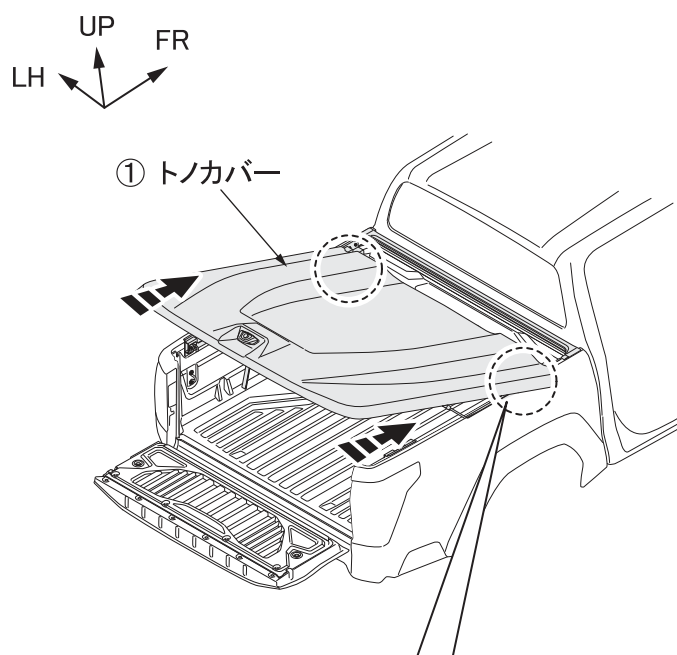
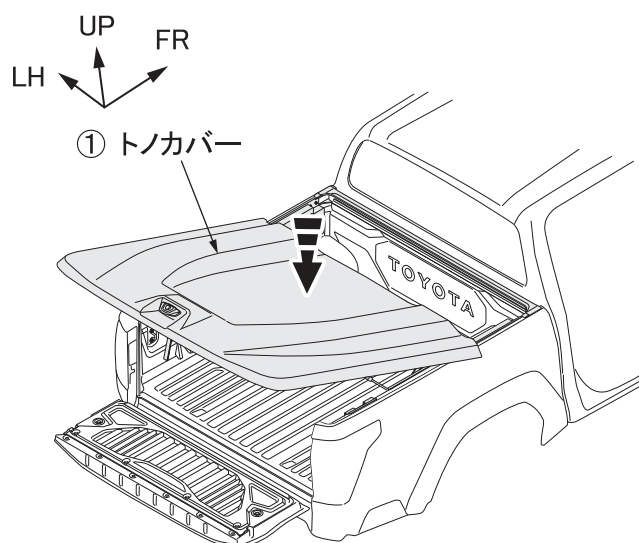


20. 図22に従い、⑦ショックアブソーバー
を⑥ヒンジブラケットとトノカバーのショック
アブソーバーブラケットに挿入して取り付ける。



トノカバーの取り付け

図23

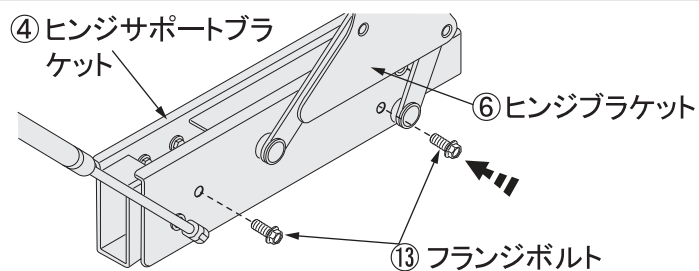
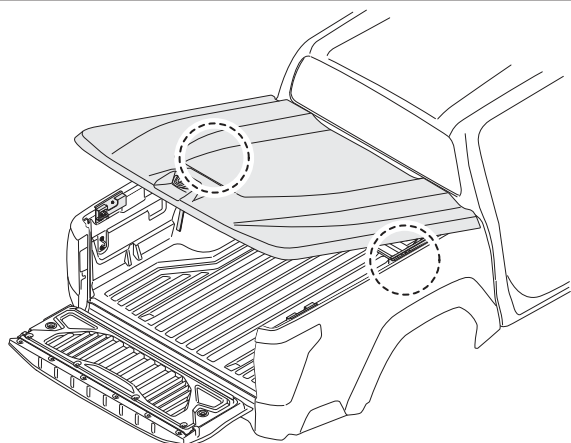


- ①トノカバーを車両荷台に乗せ⑥ヒンジブラケットを④ヒンジサポートブラケットのガイドピンに差し込む。

⚠ 注意

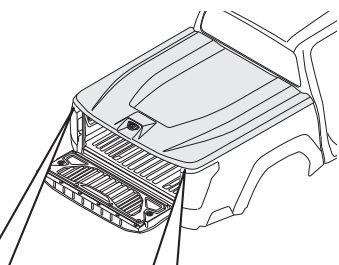
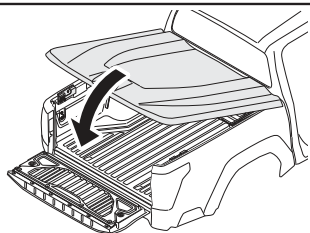
- ① トノカバーを車両荷台に乗せる際は、慎重に作業してください。

図24



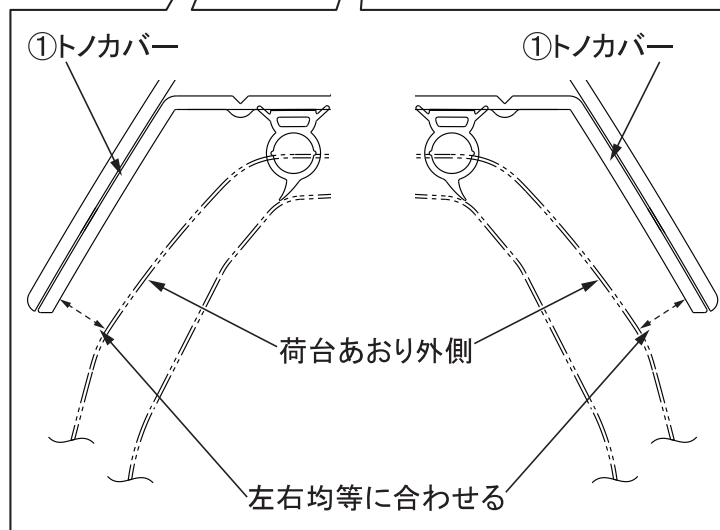
2. 図24に従い⑥ヒンジブラケットと④ヒンジサポートブラケットを⑬フランジボルトで仮締めする。

図25



3. 図25に従いテールゲートを開けた状態で①トノカバーを閉めて、①トノカバーと荷台あおり外側の隙間が左右均等か確認する。左右均等の場合は、フロント側の④ヒンジサポートブラケットの仮締めボルト4本を指定トルクで本締めする。左右均等でない場合は、仮締めボルト4本を緩め、取り付け位置を調整する。調整後に指定トルクで本締めする。

⑬フランジボルト
締め付けトルク: 18 N・m

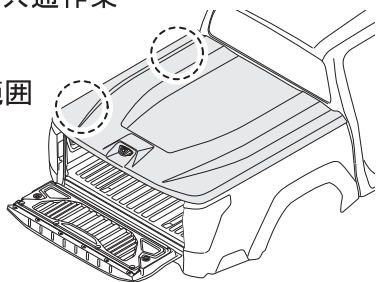


4. ①トノカバーにガタつきが無いこと、確実に左右のロックが掛かることを確認する。
 ガタつきが無く、ロックが掛かる場合は、リア側の⑤Uロックサポートブラケットの仮締めボルト4本を指定トルクで本締めする。
 ガタつきがある、ロックが掛からない場合は、仮締めボルト4本を緩め、取り付け位置を調整する。
 調整後、指定トルクで本締めする。

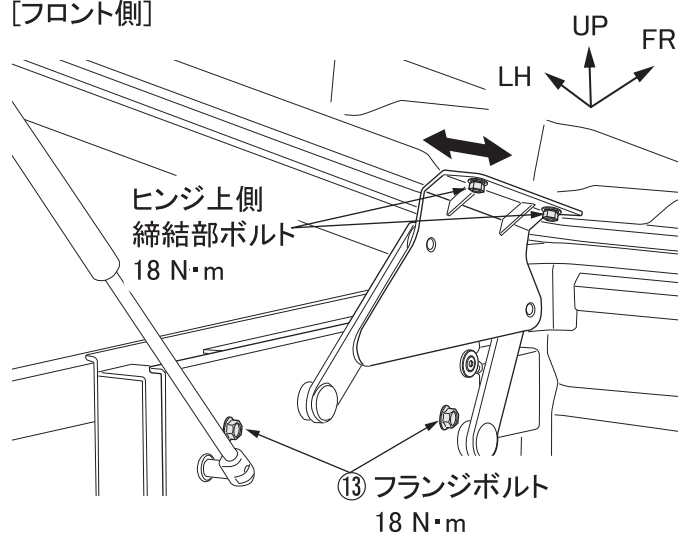
図26

※LH図示 左右共通作業

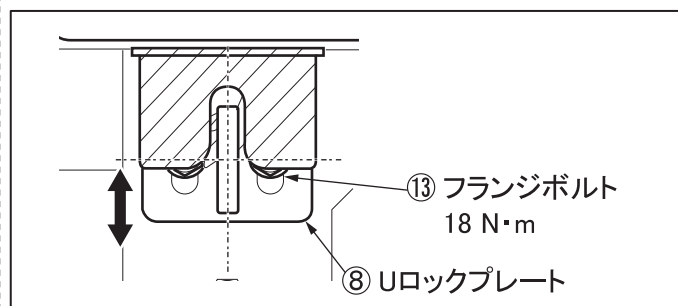
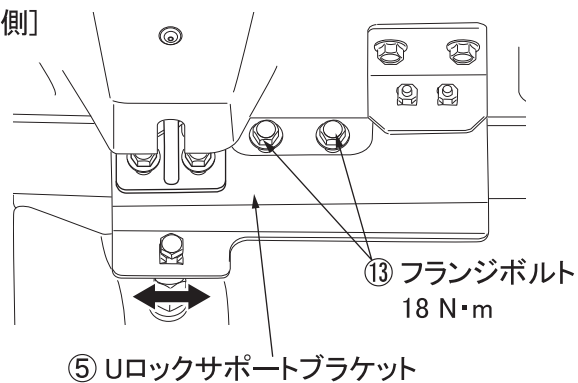
作業範囲



[フロント側]



[リヤ側]

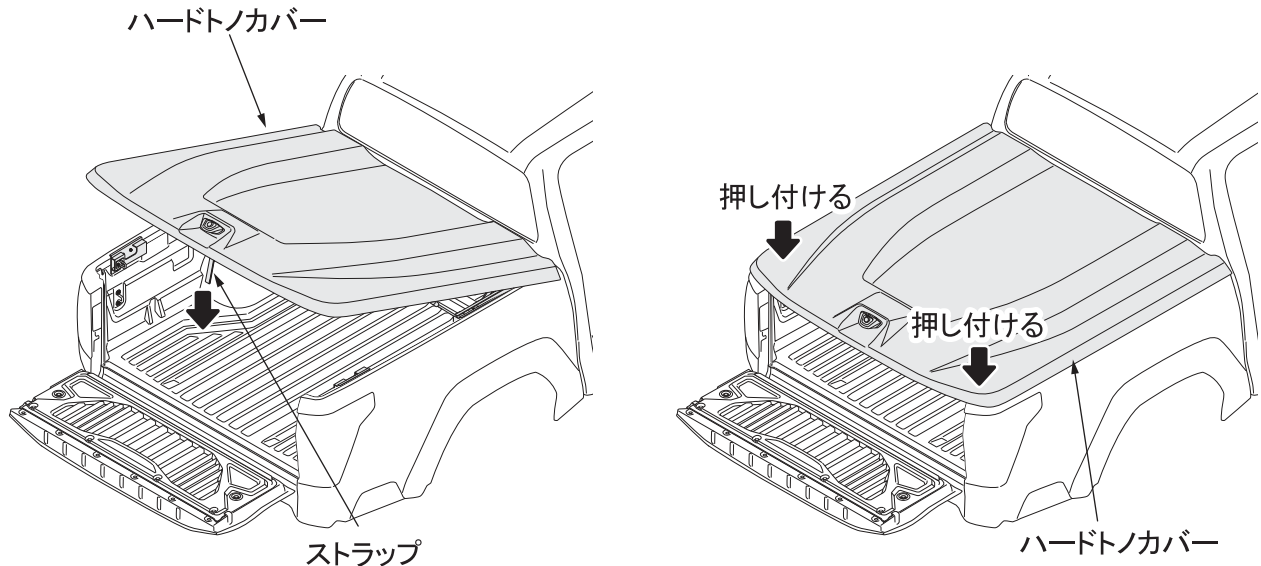


取り付け位置を調整し、確実にロックが掛かること、
 ガタつきが無いことを確認する。

■ハードトノカバーの開閉確認

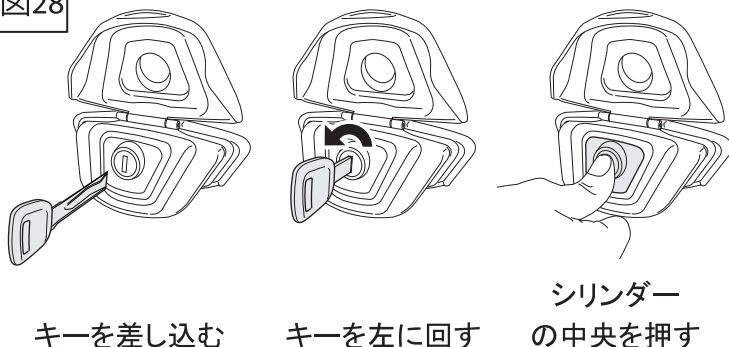
- 1.ハードトノカバー後部内側のストラップを真下に引きながら閉め、ハードトノカバーの左右ロック部(Uロック付近)を押し付けるように閉める。

図27



△注意：強い勢いで閉めるとロック部、ヒンジ部が破損するおそれがある為、注意してください。

図28



2. 図28に従いキーをシリンダーに差し込み左に回し開錠し、キーシリンダーの中央を押したまま、ハードトノカバーを持ち上げる。

△注意：ハードトノカバーの取付位置が正しいにもかかわらず、ロックしづらい場合またはアンロックしづらい場合は、21ページ3項に従いロックカバーを取り外し、25ページ16項から23項に従い六角ナットM5の位置を調整してください。

△注意：走行前にテールゲートが閉まっていること、ストラップが荷台内部に収まっていること、ハードトノカバーがロックされていることを確認してください。

△注意：ハードトノカバー裏側のランプは、単4電池を使用してください。
ランプは、開閉連動ではないため、ハードトノカバーを閉める際は、スイッチを切り消灯してください。

■取り付け完了後の点検・注意事項

- 1.商品及び車両に傷が付いていないことを確認してください。
- 2.商品全周に渡り、ガタつきが無いことを確認してください。
- 3.商品と車両との干渉が無いことを確認してください。
- 4.作業でバッテリーのマイナス端子を外した場合は、作業終了後にシステム設定・確認を行ってください。
- 5.本取り付けに伴い分解・脱着した部位により、再設定・調整が必要となる場合があります。
該当車両の修理書(トヨタ自動車(株)発行)に従い、各部の点検・調整・設定を行ってください。
6. 接着力を促進するため、取り付け後20分以内は洗車しないでください。

株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント

MODELLISTA 商品問い合わせ窓口

TEL:050-3161-1000

<https://www.modellista.co.jp/>

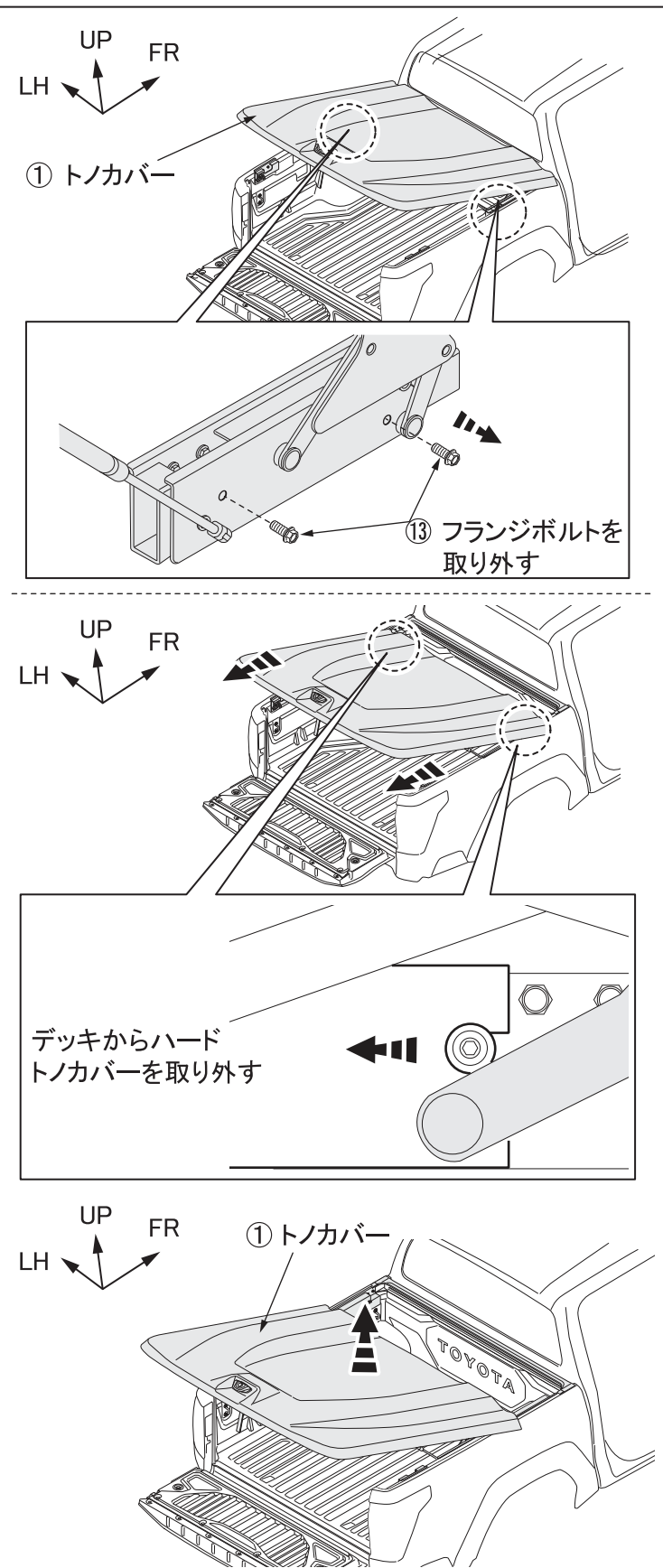
■リペアパーツセット(MSG80-0KH03)取り付け要領

□ ハードトノカバーからセンターキーを取り外す

1. ハードトノカバーを取り外す。

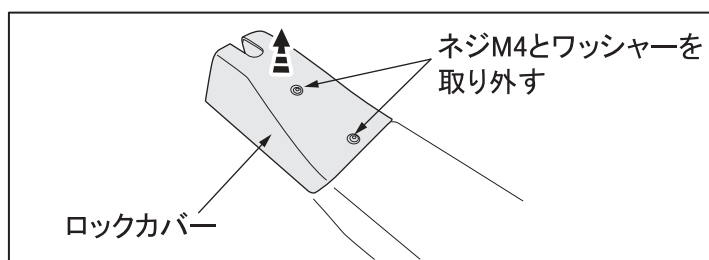
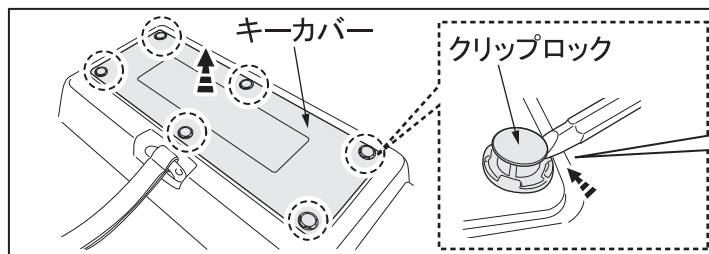
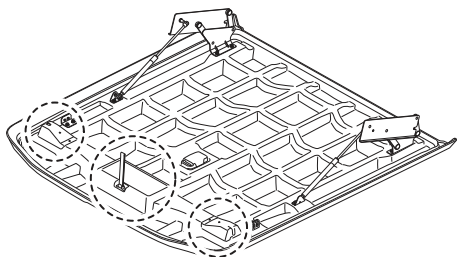
ハードトノカバーの脱着は、15～18ページ目を参考に作業してください。

⚠ 注意：取り外した部品は再利用するため、慎重に取り外してください。



2. ⑬フランジボルトを取り外し、④ヒンジサポートブラケットのガイドピンからハードトノカバーを外す。

裏面視

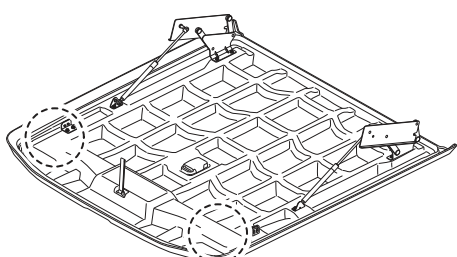


3. キーカバーとロックカバーを取り外す。

⚠ 注意：取り外した部品は再利用するため、慎重に取り外してください。

マイナスドライバーなどをクリップロックの隙間に差し入れてクリップロックの丸い部分を持ち上げる。

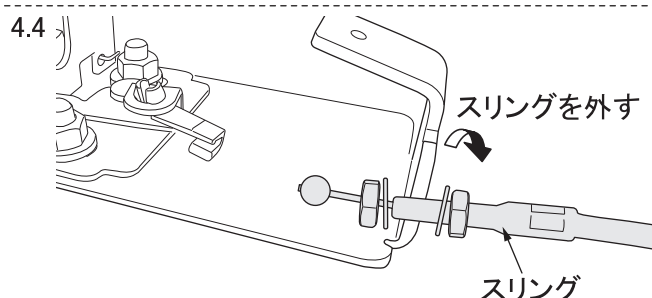
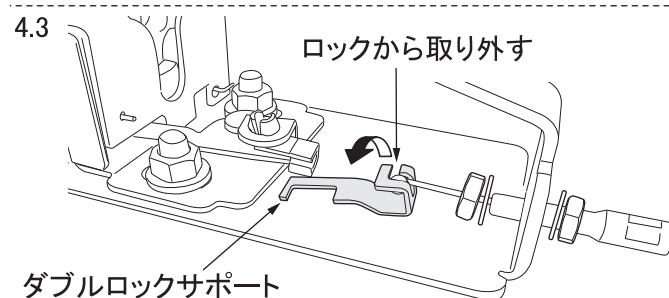
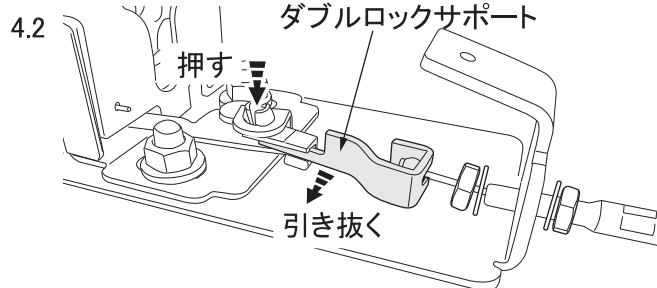
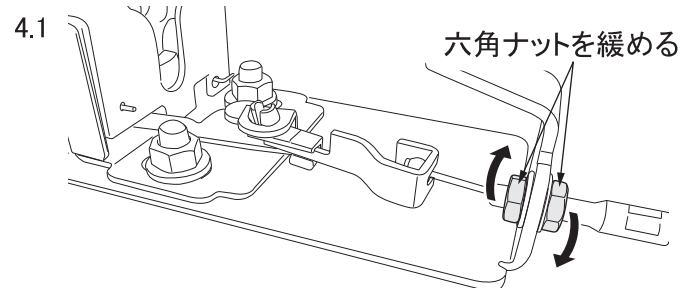
裏面視



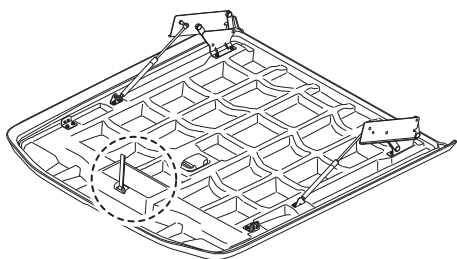
4. 六角ナットを緩めてスリングを取り外す。

⚠ 注意：取り外した部品は再利用するため、慎重に取り外してください。

六角ナットを緩めてスリングを外れる状態にし、ダブルロックサポートを引き抜いてスリングをロックから外す。

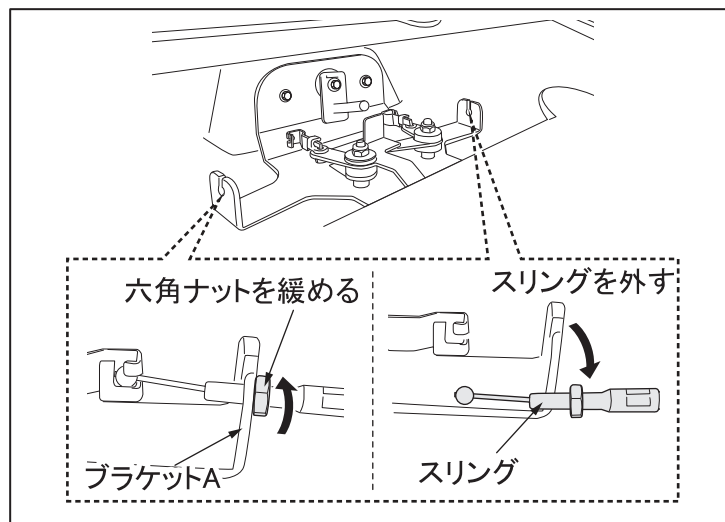


裏面視

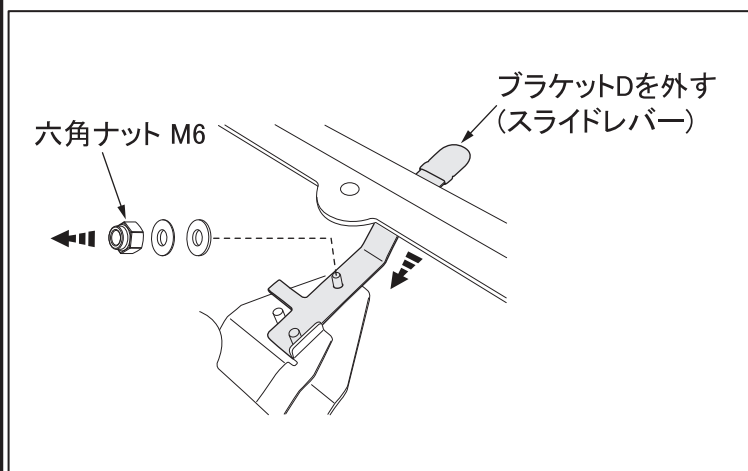


5. 六角ナットを緩めてスリングをブラケットAから取り外す。

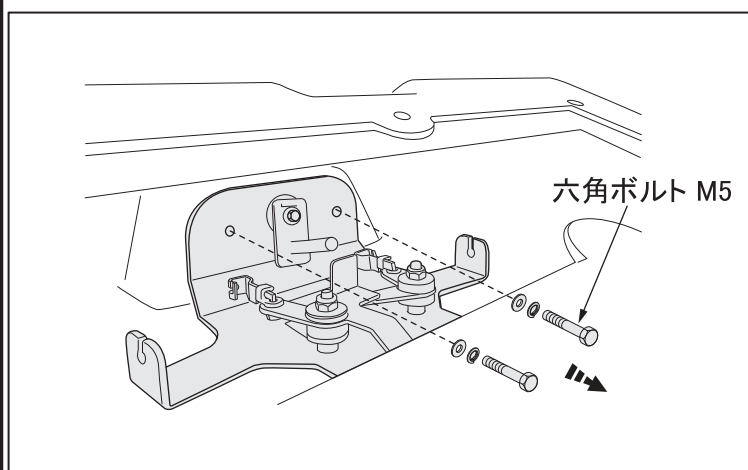
△ 注意：取り外した部品は再利用するため、慎重に取り外してください。



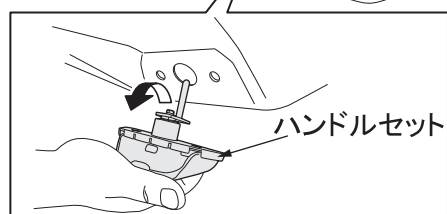
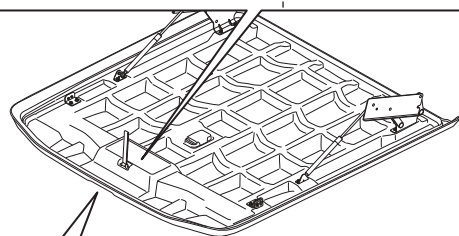
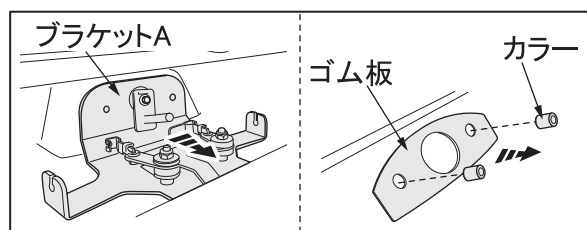
6. 六角ナット M6を緩めてスライドレバーを取り外す。



7. 六角ボルト M5を取り外す。



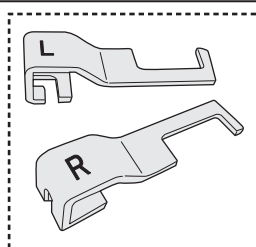
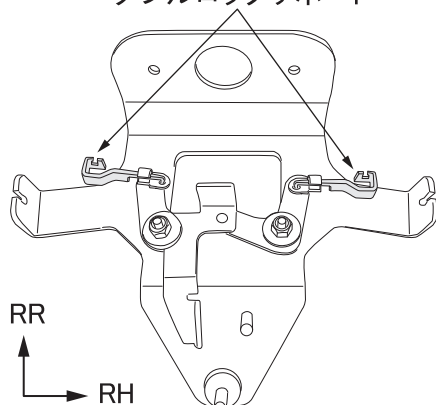
裏面視



8. ハンドルセットを取り外す。

ハンドルセットをつかみながらブラケットAを引き抜き、
ゴム板とカラーを取り外す。

ダブルロックサポート

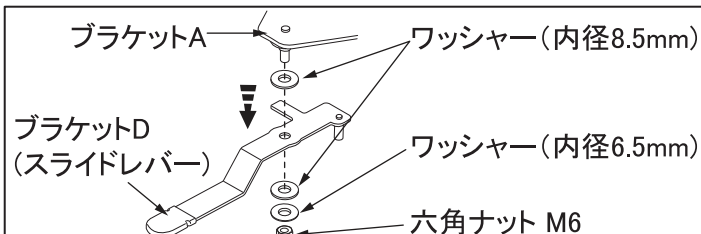
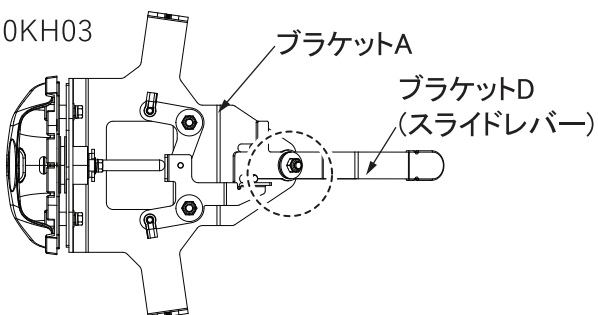


9. ダブルロックサポートを取り外す。

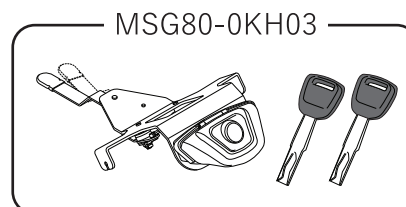
⚠ 注意：取り外した部品は再利用するため、
慎重に取り外してください。

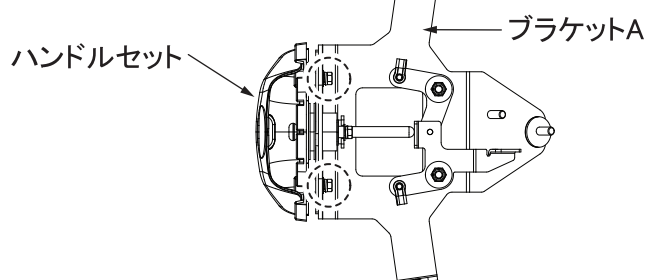
□ハードトノカバーにリペアパーツセット(MSG80-0KH03)を取り付ける

MSG80-0KH03

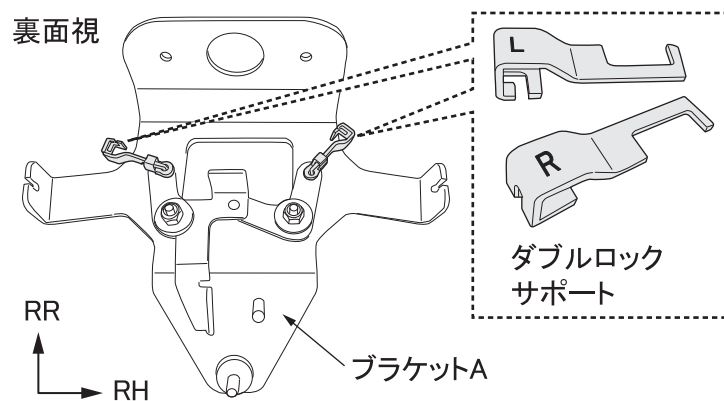
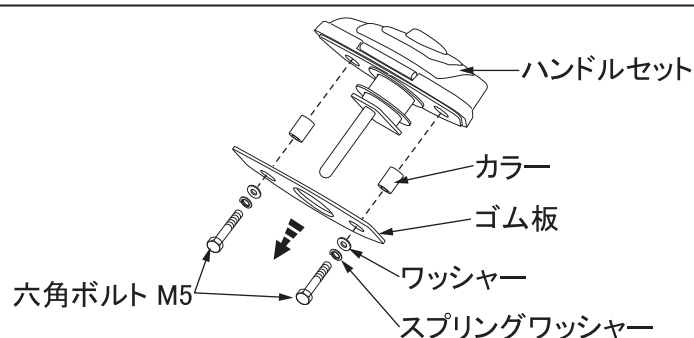


10. リペアパーツ(MSG80-0KH03)から
ブラケットD(スライドレバー)を取り外す。

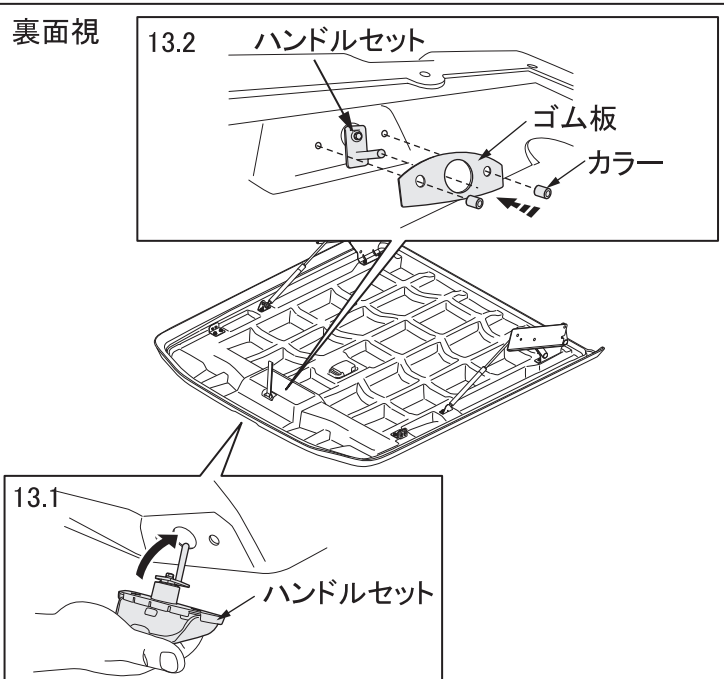




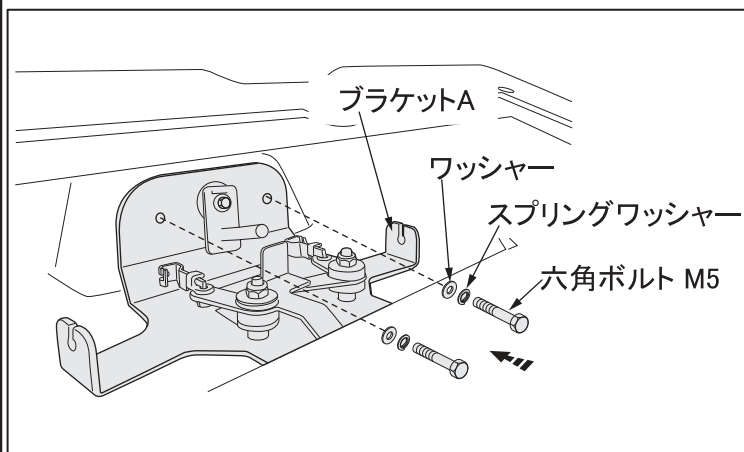
11. 六角ボルトM5を緩めてハンドルセットをブラケットAから取り外す。



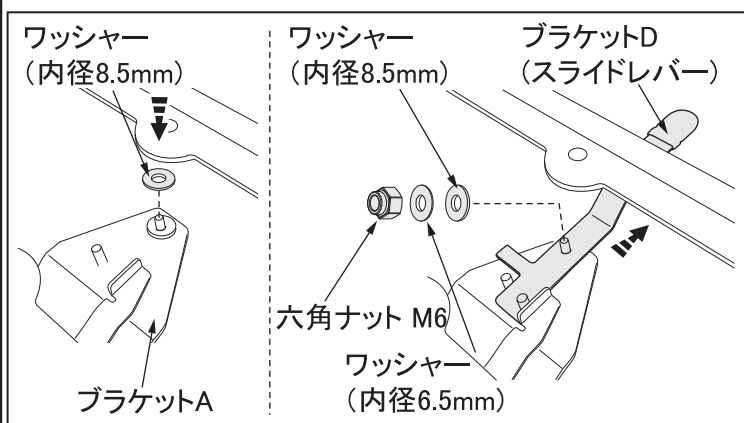
12. ダブルロックサポートを取り付ける。



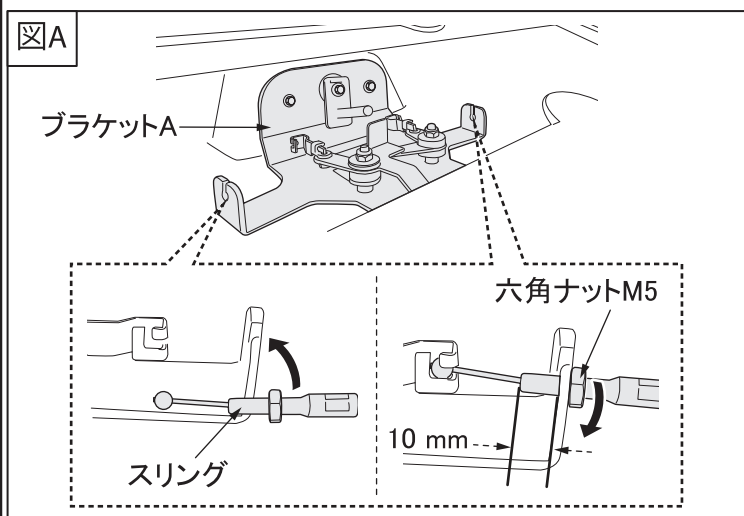
13. ハンドルセットをハードトノカバーに取り付ける
ゴム板、カラーをハンドルセットに取り付ける。



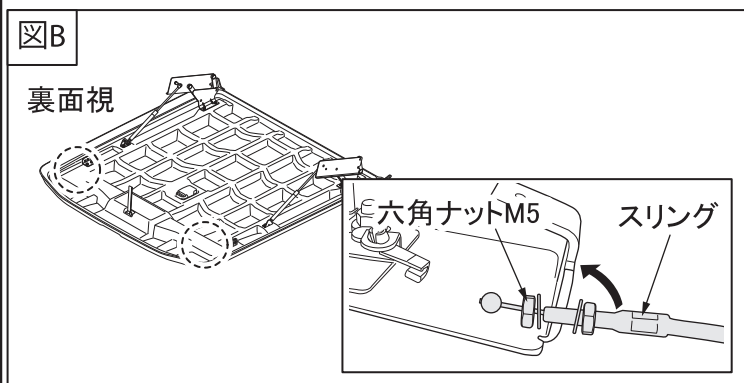
14. ブラケットAを六角ボルトM5を指定トルクで本締めする。
トルク 6 N・m



15. ブラケットDを、ワッシャー(内径8.5mm)と、ワッシャー(内径6.5mm)、六角ナットM6を指定トルクで本締めする。
トルク 6 N・m



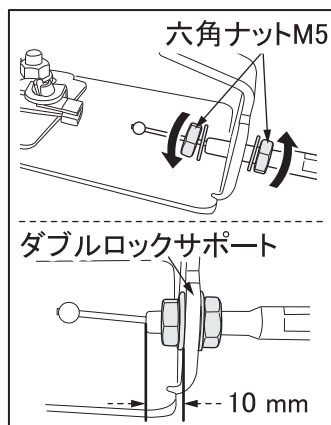
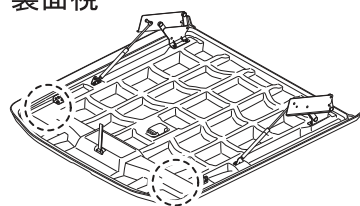
16. 図Aに従いスリングのネジ部をブラケットAから10mm出した状態で六角ナットM5を指定トルクで本締めする。
トルク8N・m



17. 図Bに従いスリングに六角ナットM5を取り付ける。

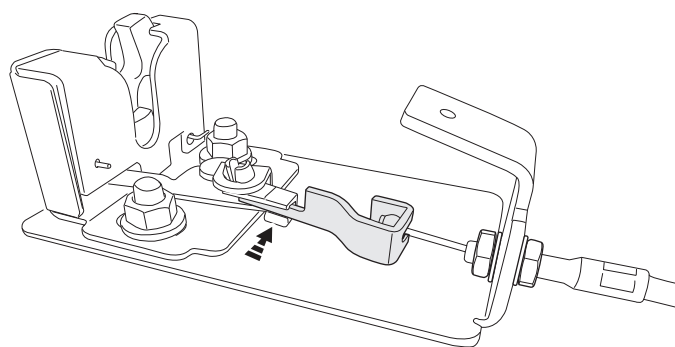
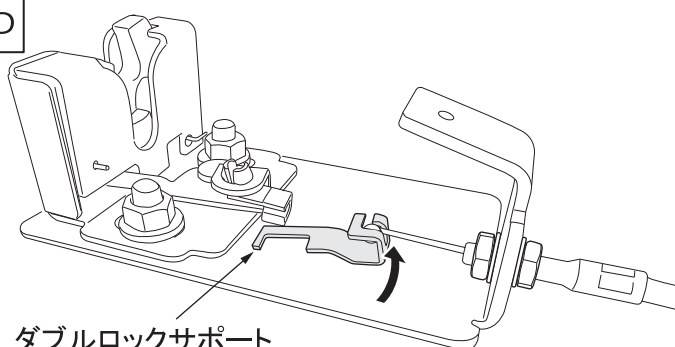
図C

裏面視



18. 図Cに従いスリングのネジ部をダブルロックサポートから10mm出した状態で、六角ナットM5を指定トルクで本締めする。
トルク 8 N・m

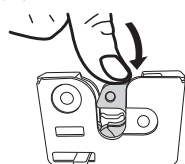
図D



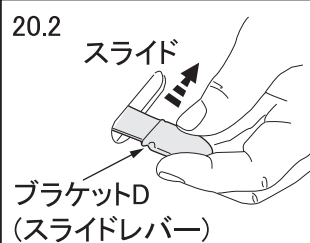
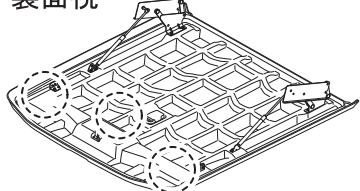
19. 図Dに従いダブルロックサポートを取り付ける。

図E

20.1 RH/LH
押すとロックされる



裏面視



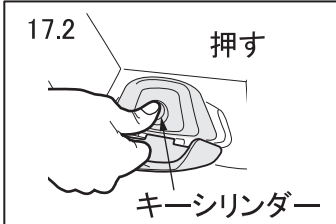
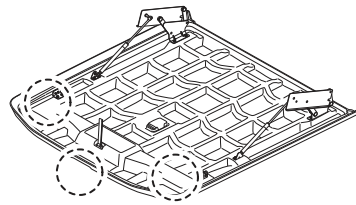
20.3 RH/LH
アンロック



20. 図Eに従いロック、アンロックすることを確認する。

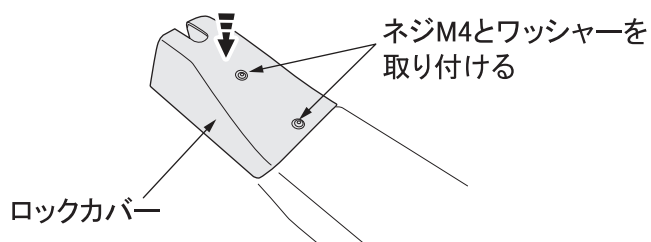
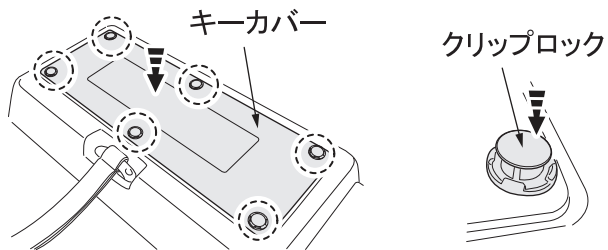
図F

裏面視

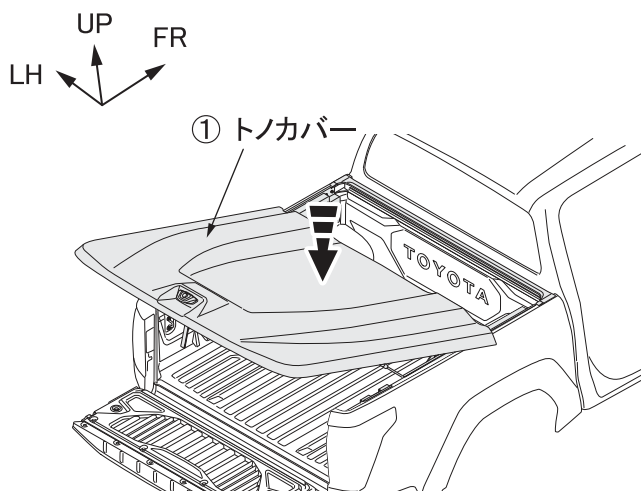


21. 図Fに従いロック、アンロックすることを確認する。

△ 注意：ロックしづらい場合は26ページ図Cを参考にして、スプリングのネジ部を10mmより長く、アンロックしづらい場合は10mmより短くなるように六角ナットの位置を調整してください。



22. キーカバーとロックカバーを取り付け、ネジM4を指定トルクで本締めする。
トルク2N・m



23. 15～18ページのトノカバー取り付け手順に従いトノカバーを取り付ける。取り付け後、確実にロックが掛かること、ガタつきがないことを確認する。

脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

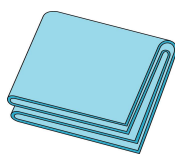


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
- ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
- ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



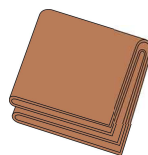
脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス



WET 用
ウエス



イソプロピルアルコール(IPA)
※純度 100%推奨

脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。



アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



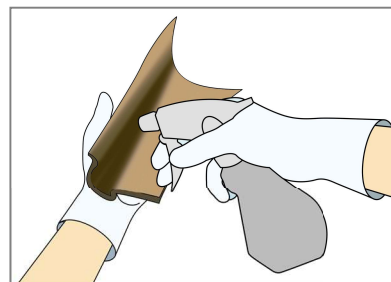
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。
以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

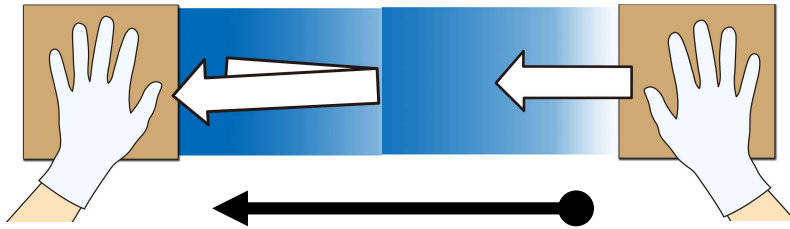
脱脂剤を含ませたウエスで

1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に

拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち

WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

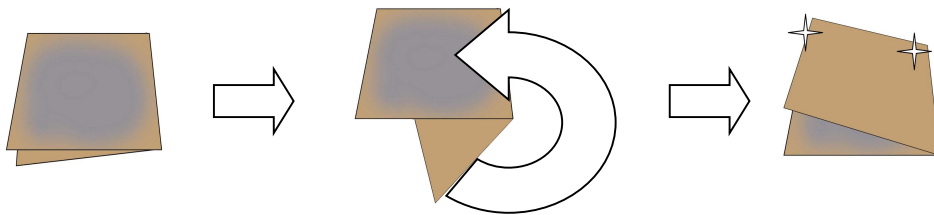
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを行ってください。

（上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。）

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3～5 ブロック 毎にウエス表面を折り返しウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際にウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。

パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書にしたがって行ってください。